

とくしまのがんばる企業を応援します

OKUSHIMA

企業情報 とくしま

(公財)とくしま産業振興機構
www.our-think.or.jp

2019.5

No.

430



Contents

徳島の企業 東邦フィルム(株) トータルパッケージプロデュース企業

徳島の企業	2
東邦フィルム株式会社	
とくしま起業人	4
ネコカフェ 猫nova 2nd Story Ale Works	
ジェット口活用事例	6
2018年度徳島県貿易・ 国際事業実態調査結果概要	
弁護士から一言	8
民法(債権法)改正	
ジェット口活用事例	10
沢根スプリング(株) 枕崎水産加工業(協)	
よろず支援拠点	12
広報ツールのリメイクセミナー	
アジア展望	14
動き出した「粤港澳大湾区」	
会館だより	16
よろず支援拠点コーディネーター	

東邦フィルム株式会社

信頼されるクオリティを追求

Pick Up News
関連記事 P2

年間スローガンには「信頼されるクオリティの追求」の8項目を挙げている。売上アップと同時に売上総利益率の追求など業績に関するクオリティと、人間としてのクオリティ(経営品質)など、クオリティを製品品質に限定せず、多面的に捉えているのが当社の特徴だ。



公益財団法人 とくしま産業振興機構



信頼されるクオリティを追求

東邦フィルム株式会社 代表取締役社長 三谷 郁彦

合成樹脂等をフィルム加工した包装資材を企画・開発から製造、出荷まで一貫した体制で行うトータルパッケージプロデュース企業として成長を続けている。



代表取締役社長 三谷郁彦

包装資材を全国に提供

量販店や食品スーパーなど、消費財や生産財の至る所に包装資材が使われている。包装資材は、内容物を保護し、取り扱いの利便性を図るほかに、商品の情報を提供し、商品をアピールする機能をもっている。当社は、商社や包装資材ディーラー、量販店等の要望に応じて合成樹脂フィルム素材を印刷・製袋・加工して全国へ出荷している。

創業は、昭和47年4月。初代社長の三谷恒夫氏が、勤務先の当時の東邦セロハン(株)の社長から、徳島にはセロハンを売る会社がないので、徳島でセロハンを売つたらどうかとの勧めもあり、セロハンの二級品を引き取り、ピンクや緑に染めて緩衝材として販売した。また、かまぼこ用の掛け紙に加工する等の商売を始めた。当社で染めたものを農家の内職で天日加工し、トラックで引き取りに行き、貨車で運搬して出荷していた。

数年後にはポリプロピレン、ポリエチレン、ポリスチレン等の合成樹脂フィルムが

普及し始めた。合成樹脂フィルムは、加工性に優れ、柔軟な形にすることが可能になる。そこで素材面では、次第に合成樹脂のウェイトを高め、加工度を高めていった。

現在では、素材は圧倒的に合成樹脂フィルムのウェイトが高く、セロハンはごく一部に減少し、新たに不織布も扱う。オーダーメイドで、印刷、シート加工、製袋と企画から製造加工、販売までを一貫して行うトータルパッケージプロデュース企業へと発展している。

本社移転による生産効率向上

当社が今日、お客様から信頼を得ている強みの一つは、お客様の仕様通りに製品化し、また要望に沿いながら提案を重ね、デザインから製造加工、印刷、製袋、出荷、配送まで一貫して行い、多品種少量短納期対応の生産体制を確立しているところにある。

本社営業部のほかに、大阪営業所、東京営業所、福岡営業所を置いており、営業担当者がお客様の要望に真摯に向き合う。商品開発は、相談役が中心にアイ



グラビア印刷機



製造現場での打合せ風景



印刷工場

ニアを出し、工場長やベテラン技能者が創意工夫してアイデアを形にしていく。チャック付き、スタンドパック、フィルムに不織布の複合材料をプラスしたもの、カラフルなデザイン等いろいろなものができる。プロのデザイナーがデザインしたものが、どの会社もできないと当社に依頼があり、難しくても挑戦した商品も枚挙にいとまない。同じ袋でも、不織布が底にあるものや、ポケットを付けたもの、レシピを入れるものなど、レパートリーは広く、ほとんどのことに対応できるのが当社の特徴だ。

その生産体制を実現したのは、平成19年の板野町羅漢への本社移転であった。本格移転に先立ち、昭和63年には、印刷部門を分離して東邦アート株式会社を設立し、板野郡上板町へ移転した。多色機を活用して、無地物から印刷物へと製品の範囲を広げていった。

移転先を探していたところ、板野町の工場団地には、神戸の縫製会社が入っていたが、中国へ工場進出し、当団地からは撤退したのでその跡地に移転した。農業用の出荷包材、工業用の需要が多岐に

広がり、大量の受注にも対応できる体制を整えた。徳島市応神町にあった本社工場と移転後の板野本社工場とを比較すると売上規模、従業員規模は約倍増したことになる。三谷郁彦社長は、「生産設備能力は若干アップしたが、それよりも生産効率が上がったことが大きかった」と振り返る。

応神町の本社工場では、増築につぐ増築で設備のレイアウトは流れを作れなかつたが、移転により製袋機、スリッター機、裁断機など整然と並べることができるようになった。5S活動にも力を入れており、5Sの推進で機械の稼働率の向上とリンクできるようになった。

さらに平成29年には、板野郡板野町へ移転してから初めて生産設備の大規模な拡大に踏み切った。既存の工場の南側にあった倉庫を改築し、工場北側には延べ1912m²の鉄骨2階建ての工場・倉庫を建設して特殊物の製袋機4台を導入した。残業することで仕事量をこなし、売上を増大させることから、付加価値を上げることを重点にすることを設備投資の面でも明確に表明したものだ。海外実習生も働いており、人材の確保や人材活用の面でも環境の整備は必要だった。

物心両面の豊かさを求めて

当社の企業理念には、「お客様第一を原点に、常に公明正大謙虚な心で仕事にあたり、天を敬い、人を愛し、仕事を愛し、会社を愛し、社会を愛する心でありたい」、企業指針には、「誠意・熱意・創意で何事も勇気をもって挑戦し続ける」、経営理念には、「全社員の物心両面の豊かさを追求すると同時に、地域社会の発展に貢献すること」を挙げている。誠意を最初に据えて、物心両面の豊かさを追求しており、社会から必要とされる企業づくりを目指している。その考え方には、毎月発行されるニュースレター(社内報)で具体化し、社員に浸透される。社長が編集、執筆し、徳島眉山倫理法人会や読書、講演会で学んだことを社内報で紹介するのだ。産業医も健康管理について執筆しており、社員一人一人が自らの品格、クオリティについて考える機会となっている。

また、誕生日祝いには商品券を、母の日にはカーネーションを、入学祝やクリスマス



業界のソフトボール大会参加

にはケーキを贈る。また、メンタルヘルス相談員の設置やアンケート、産業医の労働安全衛生委員会への出席や健康指導もある。春は花見、夏は慰労会、秋は慰安旅行、冬は新年会と社員福祉の仕組みが充実している。三谷社長は「風通しのよい社風が今日の東邦フィルムを築き上げた」という。



年間スローガンには「信頼されるクオリティの追求」の8項目を挙げている。売上アップと同時に売上総利益率の追求など業績に関するクオリティと、人間としてのクオリティ、企業としてのクオリティ(経営品質)など、クオリティを製品品質に限定せず、多面的に捉えているのが当社の特徴だ。社内には、初代社長の手による「衆人皆師」の額が掲示されている。礼儀や挨拶、物を大切にする心、共感する心を磨くことが品格を高め、お客様の信頼を得て社会に必要とされる会社になっていくのだ。

値決めができる高付加価値の会社へ

4月には新入社員4名が入社した。人口減少時代へ対応した採用戦略と同時に、技術・技能の伝承、社員増に伴う管理者の養成や既存社員の能力アップも組織のクオリティを上げるために必須の課題だ。また、付加価値を上げるために、商品開発と高品質製品の追求、社員全員の品質管理に対する意識の徹底、お客様満足の一体的管理をさらに組織的に推進することを経営方針に掲げている。そのため、個人の能力に依存してきた商品開発から組織的に商品開発部を立ち上げ、品質

管理との一体的管理を進めている。

経済産業省から「地域未来牽引企業」に選定されたことも新たなモチベーションとなっている。これは地域特性をいかして高い付加価値を創出し、地域の経済的波及効果を期待されてのものだ。三谷社長は、「全国47都道府県全てに製品を納入していることが成長性として評価されたと思う」「値決めができる会社が付加価値を高める。そのため製品、人、経営等のクオリティを高めていきたい」と力強く語っている。

(文責:濱川 泰博)



Company Profile

会社名	東邦フィルム株式会社
所在地	板野郡板野町羅漢字川原崎2番1
設立	昭和47年4月
資本金	1,000万円
従業員数	95名
TEL	088-672-7878
FAX	088-672-7877
URL	http://www.tohofilm.co.jp